

報道機関各位

— 持続可能な農業と県北地域における農業の振興に向けて —

令和3年度 県北地域有機農業拠点ほ場技術検討会をWEB開催しました

県北農林事務所では、付加価値を高めた農産物生産による農業の振興を図るために、有機農業の取組を推進しています。その一環として、このたび、「県北地域有機農業拠点ほ場技術検討会」を（新型コロナウイルスのまん延状況等を考慮し、WEBで）開催しました。

今後とも、「いばらきオーガニックステップアップ事業」等を活用し、関係機関と連携して、県北地域における有機農業の推進を図ってまいります。

- | | |
|--------------|---|
| 1 日 時 | 令和4年3月16日（水）13時30分～15時10分 |
| 2 参加者 | 有機農業実践者、有機農業に興味のある農業者、農業関係団体など（約60名） |
| 3 主催
（共催） | 茨城県 県北農林事務所 企画調整部門 振興・環境室
常陸大宮市 産業観光部 農林振興課 |
| 4 主な内容 | <p>(1) 講演「サラリーマンからの転身 有機農業者として独立に必要な5つの要素」
（株）レインボーフューチャー 代表取締役 大和田 忠（おおわだ ただし）氏</p> <ul style="list-style-type: none"> ・有機農業には、技術、畑、資金、機械、流通の5要素に加え、「絶対に農業で生活するんだという気持ちと情熱」が必要 ・大手スーパーとの取引でのロット確保の苦労と病害虫防除の工夫 <p>(2) 講演「緑肥の利用と草管理について」
コトコトファーム 古東 篤（ことこう あつし）氏</p> <ul style="list-style-type: none"> ・少量多品目栽培を生かした「野菜ボックス」による個人向け宅配の取組 ・緑肥による土壌中微生物の多様化と無農薬と言えどもきれいな野菜の出荷を心掛けている <p>(3) 県北地域有機農業拠点ほ場土壌分析結果について
県農業総合センター 農業研究所 環境・土壌研究室 小野 仁美 技師</p> <ul style="list-style-type: none"> ・有機農業モデル団地（常陸大宮市三美地区）では土壌化学性の改善が進んでいる ・土壌生物性は、慣行栽培に比べ全項目で高い値となった <p>(4) 常陸大宮市「有機農業推進計画」について
常陸大宮市 産業観光部 農林振興課 猿田 光良 主査</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市では、県内市町村で初めてとなる「有機農業推進計画」を3月11日に策定した ・今後、計画実現に向け、市有機農業推進連絡協議会（仮称）を設置する <p>(5) 質疑応答</p> <ul style="list-style-type: none"> ・有機農業で連作障害を抑えることができるのか ・緑肥の肥料としての効果はどの位あるのか など |



大和田氏（WEB講演）



古東氏（WEB講演）

講師紹介

- 大和田氏：筑西市内の約30ha、常陸大宮市内の約5haのほ場で、年間約50品目以上の有機野菜を大手スーパー等に出荷。令和元年度に、常陸大宮市三美地区に参入、現在、ニンジン、ベビーリーフ、ホウレンソウを栽培
- 古東氏：常陸大宮市内の約2haのほ場で、化学肥料や農薬を使用しないで、少量多品目（年間約40品目）を栽培し、個人へ宅配を中心に販売。平成23年に、新規参入により常陸大宮市に移り住み取組定着

【問合せ先】

茨城県県北農林事務所 企画調整部門 振興・環境室

農業振興課 担当：眞部、浦田

TEL:0294-80-3303 FAX:0294-80-3304

e-mail:hokunourin02@pref.ibaraki.lg.jp

「Thank You! いばらき農業」